



8



5



6



2



7



3



4

1 中国電力の技術協力企業である九動。島根県内では、三隅発電所以外に、島根原子力発電所のメンテナンスも担っており、松江市鹿島町の原発敷地内にも営業所を構えている 2 タービンや発電機などのメンテナンス工事では、パーツをバラバラに分解して損傷やサビなどの有無を確認し、必要に応じて修復・交換する。わずかな不具合も見逃しが許されない 3 5 6 電力設備の総重量は100トンを超え、分解パーツは1000点以上。一人でできない作業が多く、チームワークが欠かせない 4 三隅発電所の心臓部である発電機 7 国内最大級の出力規模を誇る三隅発電所。北側は海に面し、燃料となる石炭が船で輸送されてくる 8 「エネルギー安定供給のために不可欠な存在だと自負しています」と話す大田邦彦常務取締役



1

まさに地域の命綱を託されている。浜田市にある三隅発電所には、1998年に運転開始した一号機の建設段階から携わり、現在も所内の営業所を拠点に各種発電設備のメンテナンスを実施。電気を作る心臓部とも言える発電機やタービンの細密点検時は、数千にも及ぶすべてのパーツをバラバラに分解。経年による損傷やサビがないか、規定の厚みを満たしているかなどを目視やマイクローメーターで確認し、必要に応じて修理・交換したのち、再び組み立てていく。そうして200万kWという国内最大級の出力規模を誇る発電所を確実に稼働させている。

定期検査に加え、緊急時の対応も重要だ。センサーが異常を検知すれば24時間365日駆け付け、原因究明と修復にあたる。大田邦彦常務取締役は、「ライフラインに携わる企業としての使命です」と胸を張る。特殊な技術力は、〇Jを中心に磨かれるほか、細やかなフォローアップ研修で習得。技術士やボイラー・タービン主任技術士、消防設備士などの各種資格取得は会社が全額負担するなど、スキルアップ体制も充実している。確固たる技術力を持つエンジニアたちは、地域の暮らしを根底から支え、未来を切り拓くかけがえのない存在であり続ける。

発電設備のメンテ分野で中国地方トップの実績

社会生活のあらゆる場面で使われ、人々の豊かな暮らしを実現している電気。この電気をトラブルなく確実に供給先へ届けるため、発電所内でのメンテナンス事業を担うのが、《株式会社九動》だ。広範囲に張り巡らされた電力システムは、わずか一か所の不具合でも、大規模な地域停電などの損害をもたらしかねない。

地域の暮らしと経済発展を支える高度技術のプロフェッショナル集団

中国電力の技術協力企業として、発電設備のメンテナンス事業を専門的に行う《株式会社九動》。中国地方にある6つの火力・原子力発電所のすべてに事業所を設置し、トップクラスの実績を誇る。



株式会社 九動

創 業 昭和37 (1962) 年5月
代表者 代表取締役社長 下花 眞二
社員数 194名 (男181名 女13名)
本 社 広島県安芸郡坂町横浜中央1-6-30

事業内容

発電所や自家発電設備での主機及び補機の保守・点検・据付等の業務

勤務地(採用エリア)

浜田市、松江市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 随時受け付けの1dayインターンを実施。詳細・申込は公式サイト「インターンシップ」から。

採用担当者からあなたへ

発電所のメンテナンス分野では中国地方トップクラスの実績です。平均年齢37歳。20代が多く活気のある職場です。学部学科不問、未経験でも仕事を通して学び成長できる環境です。地元で長く働けます。一緒に社会インフラである発電所を支え地域社会に貢献しましょう。

本社 総務部長
松崎 大輔さん

採用に関するお問い合わせ先

082-820-1120

公式サイトは
こちら



動画サイトは
こちら



Instagramは
こちら



九動をもっと知りたいあなたへ

Q. 理系出身でなくても大丈夫ですか？

A. 理系や機械・電気系を学んでいなくても、社内できめ細やかな研修や教育を行うので問題ありません。入社後約3年間は、経験10年程度の先輩社員がマンツーマンで付いて指導。初年度は本社担当者によるフォロー面談を複数回行い、安心して仕事ができるようバックアップしています。人文系や情報系、環境系、高校では普通科など、幅広い学科出身の先輩社員が働いています。

Q. 福利厚生は？

A. 一番好評なのが2年に一度の社員旅行です。費用は全額会社負担で、社員の積み立てはありません。これまでに韓国や台湾、タイ、グアム、シンガポール、北海道、沖縄に行きました。行き先は社員アンケートで決定します。家族がいる社員は、社員旅行とは別に家族旅行を選択することもでき、最大13万円まで旅行費用の補助があります。



韓国ソウル組：北村韓屋村にて



タイバンコク組：
ワット・サマーン・ラッタナラームにて

Q. 九動の社風は？

A. 時間や礼儀、整理整頓などがきちんとしている職場です。発電所の設備はほぼすべてがオーダーメイド。メンテナンスの際には、数千ものパーツをバラバラに分解しますが、万が一部品をなくしてしまうと大変なので、整理整頓は徹底しています。また、多い時には協力会社を含め、数百人が協力して作業するので、コミュニケーション力が自然と養えます。9割以上が男性の職場。仕事柄、動きながら徹底的に考える“知的体育会系”の雰囲気が漂っています。



Q. どんな人に向いていますか？

A. まずは、体を動かすことが好きな人。当社の仕事は発電所内の機械設備を相手に行うため、腕力・体力に自信がある人に向いていると思います。また、基本的な業務内容は分解・組み立てなので、ものづくりが好きな人にもぴったりです。加えて、チームワークを大事にできる人。人とコミュニケーションを図り、相手の立場になって行動できる人に合うと思います。



九動で働く魅力とは？

機械好きにはぴったりの職場

中学・高校時代は陸上部に所属。商業高校に通っていたものの、「体を動かす仕事の方が自分には合っている」と発電所内でのメンテナンス業務を選んだ。発電機をメインに担当しつつ、各部署で経験を重ね、現在はオールラウンダーとしてさまざまな業務に携わる。「燃やした石炭を処理する機械装置の交換から、蒸気が流れるバルブや簡易エレベーターの点検まで、発電所内には多種多様な業務があります。メンテナンスだけでなく、治具を作ったり溶接をしたりすることも。機械好きにはたまらない職場かもしれません」と笑う。33歳でマイホームを購入。「休日は家の掃除と、子どもの相手であっという間に時間が過ぎます」



三隅営業所 作業責任者 主任
山藤 将史さん(35)
2009年入社



オンオフの切り替えがきっちりできる

小さい頃はプラモデルに夢中だったという西森さん。地元での就職を考えた時、機械メンテナンスを主業務とする当社が目に入った。現在は、蒸気タービンや浄水槽などへ水を送る小型ポンプのメンテを担当。ベアリングやグランドシールなどの消耗品を定期的に取り替えるほか、非常時の対応にもあたる。「夜中に呼び出しを受けて駆け付けることも。適切に処理し、ちゃんと動いた時は達成感を感じます」。27歳で作業責任者となり、工程管理や顧客との交渉も担い始めた。同年に結婚し、メンテナンスができない電力需要期に1週間、有給休暇を得て新婚旅行へ。「基本土日は休みだし、時期によってはしっかり休暇を取れるのも当社の魅力です」



三隅営業所 作業責任者 副主任
西森 雄哉さん(29)
2019年入社



チームワークが不可欠

排ガスを無害化するアンモニアの貯蔵設備、石炭を運ぶ運炭設備、小型ポンプの担当を経て、現在は発電機のメンテナンスを担うように。「電気を生み出す仕組みが初めて分かりました」と笑う。6年に一度の細密点検時はすべてのパーツをバラバラにするが、中には数十トンの部品もあり、チームワークが欠かせない。「発電機内のローター（軸）を引き抜く際は、受け手を含めて2台のクレーンを使用。周囲の機械を損傷させず、かつ確実に移動させるため、メガホンで声かけをしながら十数人で作業しました」。2024年に責任者に就任。現場を仕切る難しさに苦労しつつ、経験を積んでスキルアップする面白みを感じ始めている。



三隅営業所 作業責任者 副主任
横木 侑晟さん(25)
2019年入社



電力供給の心臓部を担う

高校の担当教諭や先輩から「中国電力の心臓部を担う会社」と聞き、興味を持って入社。しかし当初はベテラン社員によく叱られた。理由は、玉掛け作業中の下を通ったり、ワイヤーが当たる場所に手を置いたりしたためで、いずれも坂田さんの安全確保を第一に考えてくれたからだったが、「それでも凹みました」と苦笑する。経験を重ね、一つ一つの部品の意味を考えて作業するようになると、仕事の全体像をつかめ、面白みを感じるように。「仕事を任せられ、自分の成長を感じられるようになってモチベーションも上がります」。コロナ禍で休止されていた社員旅行が2024年から復活した。「初めての社員旅行は北海道へ。とても楽しめました」



三隅営業所 作業責任者
坂田 聖斗さん(23)
2021年入社

